

けり。

○法然寺橋

此の橋名今は絶えたり。故に金澤橋梁記に、百姓橋本多家中出口とあり。舊傳に云ふ。昔は川上新町の法然寺は、百姓町慶覺寺の向小路にありて、其の比此の町内なる本多下邸へ往來の橋をば法然寺橋と呼べり。又此の橋爪に下邸の入口なる番所を、後々までも法然寺口番所と呼び來れり。是のそのかみ法然寺此の地邊にありし頃よりの遺名なりといへり。按ずるに、石浦神社に傳來せる寛永八年の氏子地圖に、百姓町に法然寺と記載し、其の近邊に橋梁を圖せり。是即ち法然寺橋なる事知られけり。此の川は倉月用水にて、此の橋下を流れ、油車牛右衛門橋へ出でたり。今此の橋をば百姓町の橋と呼べるのみにて、橋名は早く絶えたりといへり。法然寺橋の名は知るものなし。

○誓念寺廢跡

誓念寺は、東本願寺派の道場にて、御堂坊主なりしが、安政二年十一月十六日東末寺へ火を付け、遂に其の事露顯して、捕縛せられ、磔の重刑に處せられ、寺破却を命ぜられ

たり。その寺地は慶覺寺の向小路西側也。按ずるに、元祿十年の諸宗破却寺取調帳に、越中國礪波郡内嶋村西光寺は一向宗東方の道場坊主なるが、萬治三年の夏神木を伐るに付き追放を命ぜられ、寺院を破却せられたること見ゆ。萬治頃の嚴格洞察すべし。

○瀬戸町

此の町は、法然寺橋の川縁なる裏町にて、小家共僅かに建ちたれど、昔より瀬戸町と呼べり。或は云ふ此の町地は人家の後地にて甚だ閑地なり。されば瀬戸町は背戸町の意ならんかといへり。瀬戸町といふは、堀川餌指町の邊にもあり。但し明治四年四月町名改革の時、百姓町へ屬せしめられたり。

○日向町

此の町は、百姓町の末、上本多町川御亭の入口邊を呼べり。舊傳に云ふ。昔は此の町名を稱する地餘程廣かりしかど、本多下邸内に取込と成り、其の後は下邸の出口僅かの間をのみ稱する事とは成りたり。今は此の町名を廢し、百姓町へ屬せしめられたり。按ずるに、日向町の町名の起源

は、未だ詳かならず。元祿九年の地子町肝煎裁許附に、長門町・周防町を記載し、或は能登町などの町名ありて、そのかみ如何なる由縁にて、國名を町名に付けたりけん。其の中にも長門町は、山崎長門の事を云ひ傳ふといへども、日向町・周防町・能登町などは、如何なる由なりや知るべからず。

○犀川掛作町

元祿九年の地子町肝煎裁許附に、百姓町の次に犀川懸作町を記載し、旁註に九里より上と載せたり。されば元祿以前頃よりの町名なりしといへども、後に絶えたるゆゑ詳かならず。按ずるに、此の町は日向町と稱せし地の、玄蕃川の川縁にて、古へ川側に掛作りせし故の遺名ならんか。掛作は梯作りの意にて、頓作の義なりといへり。但し明治四年四月町名改革の時、此の地邊を悉く百姓町に合併して、小名共を廢せり。

○山伏長樂寺跡

變異記に、享保廿年七月廿五日夜、百姓町山伏長樂寺より出火、百姓町悉く燒失。とありて、百姓町の末犀川掛作町

といひたりし、玄蕃川の川曲にありしかど、明治二年神佛混淆御廢止に付き、長樂寺は復飾して神職と成り、加藤主馬といへり。其の後小立野眞言宗寶幢寺へ家屋建物を譲り渡して、此の地を退去し、寶幢寺は石浦神社の元と本地佛長谷觀音を、舊藩社寺方より譲り請け、爰に安置せり。

○玄蕃川

此の川は、川上覺源寺の尻地なる犀川の川除に水戸口を附け、犀川より用水を取れり。此の水戸口をば油瀬木と呼べり。此の下流は即ち玄蕃川にて、百姓町通りを流れ、鱗町にて倉月用水川へ合併し、油車へ出づるなり。昔油車屋源兵衛といふもの、油車の地に水車を取建てける時、倉月用水のみにては水勢弱きとて、更に犀川より用水をせき入れ、その流水を百姓町へ通し、油車にそゞげり。故に彼のせきをば油瀬木と呼び、用水川をも源兵衛川と俗稱せしを、後人誤つて玄蕃川と呼べりとぞ。一説に、昔佐久間玄蕃の時此の用水を通ぜり。故に玄蕃川と稱すといへども、非也。後人の附會なるべし。